

## 第4章 ビハーラ活動者養成の現状 — 調査報告 —

### 1 ビハーラ活動者養成研修会の概要

宗派では、1986（昭和61）年研修部に「ビハーラ（仏教ホスピス）研究会」が発足し、翌1987（昭和62）年に改称され、「ビハーラ実践活動研究会」が設置された。

その後、この研究会が中心となり、ビハーラ活動者を養成するため1987（昭和62）年より、基本学習会（現在のビハーラ活動者養成研修会）を開催している。

「ビハーラ活動者養成研修会」のカリキュラムは改訂を経て、身体的介護からカウンセリングを中心とした研修へと変わってきている。

1986（昭和61）年当初、当時の「ビハーラ（仏教ホスピス）研究会」において会員養成の実施要項を作り、基本学習のカリキュラムと実践学習の重点目標が定められた。基本学習は2泊3日もしくは1泊2日で実践学習に必要となる基礎科目を学習、実践学習は実際に病院や老人福祉施設の現場に入り、学習を深めるものである。

しかし、当初のカリキュラムでの研修について、実践学習のレポートや現場から問題点が提起されたため、議論を重ね、新しいカリキュラムを作成した。養成目標をこれまでの会員養成からビハーラ活動を主体的に実践できるよう養成するものとした。大きくは4分野「ビハーラ活動基本視点」「ビハーラ活動の対象者理解」「関連領域の基礎知識」「ビハーラ活動の実技・演習」の習得をねらうというカリキュラムとした。

2006（平成18）年度からは基本学習会4回（2泊3日）、実習2回（1泊2日）で行った。基本学習会として「真宗とビハーラ」「福祉とビハーラ」「医療とビハーラ」「カウンセリングとビハーラ」を行った。

2012（平成24）年度からは、従来の実践学習に、受講者が近隣施設で行う自主実習をカリキュラムに加える等した。

30年を迎えた2016（平成28）年度には、第26期ビハーラ活動養成研修会が開催され、これまでの修了者は約1,300名となり、宗門におけるビハーラ活動推進の原動力となっている。